シリーズ 回想

軍楽隊能力構築支援 97

1 序

令和4年11月、自衛隊音楽まつりが3年ぶりに開催された。陸・海・空自衛隊の各音楽隊に加え、在日米陸軍、海兵隊軍楽隊、パキスタン陸軍軍楽隊が参加し、「コロナ禍にもかかわらず盛大かつ感動的な音楽まつりとなった。そして聴衆を最も惹きつけ大きな感動を届けてくれたのが、創設から7年間、一貫して中央音楽隊（以下、中音）が育成支援を続けてきたパプアニューギニア国防軍軍楽隊であった。本稿ではこれまでの支援を振り返り、中音と同軍楽隊の歩みを紹介させていただく。

2 PNGって!?

平成26年、陸幕から突然「陸上幕僚長がパプアニューギニアの国防軍司令官との会談で軍楽隊の育成支援を打診されましたが、中音の支援は可能ですか?」と質問を受けた。当時は能力構築支援と聞いてもよくわからず、どこかの部隊が行っている国際協力という程度の認識であったため全く想定外、斜め上からの打診であった。ただわれわれが日々追求している音楽分野で国際貢献できるということは率直に魅力であったため「ぜひ前向きに検討させてください」と返答した。その後送られてきた関連資料には「PNG?」の文字が躍る。PNG?…パプア（P）・ニューー（N）・ギニア（G）!?

その日からPNGとの濃密な日々が始まった。

3 ゼロからの始まり

当時PNG国防軍には軍楽隊が存在せず、要員も楽器も練習場所も何もない状態であった。まさにゼロから軍楽隊を生み出す壮大な支援で、どのくらいの期間で創設できるかは雲をつかむような事業であった。PNGの要望は3年半後の平成30年、同国で初めて開催されるアジア太平洋経済協力首脳会議（APEC2018）での演奏を目指したいとのこと。

支援をイメージする際にまず思い浮かんだのは150年前の日本。明治維新に陸・海軍の軍楽隊を創設したことであった。当時の日本には西洋音楽文化がなかったため、いわゆる「御雇い外国人」として陸軍はフランス、海軍はイギリスの軍楽隊長を招へいし、全く素養のない人に音楽を教え始めた。記録によると明治2年に海軍軍楽隊の母体となる薩摩藩軍楽隊が修習を始め、4年後の明治6年には天皇陛下の御前で演奏をしている。PNGの場合、平成27年から教育を開始できてAPECまで3年しかなく、しかも現時点ではゼロの状態。現実的に実行可能なのか悩んだが、陸上自衛隊は創隊以来の大改革を推進する最中、音楽科職種も怯まず挑戦してみようと隊長以下、覚悟を決め、3カ年の支援計画を立てた。

乗り越えないといけない課題は山積みであった。教育はPNG国防軍が選定した2人の基幹要員を日本に招へいして指導することから始まった。楽器は外務省ODAで供与することを念頭に調整が進められた。平成29年、軍に対する初めてのODAとして楽器一式が供与された。またODAに先立ち、平成28年には宮城県の仙台育英高校から吹奏楽部の中古楽器を寄贈いただき、日本・パプアニューギニア協会によってPNGまで輸送され、軍楽隊の育成に大きな進展をもたらしたことを感謝の念を込め紹介させていただく。

音楽がつなぐ平和の道～

パプアニューギニア国防軍軍楽隊能力構築支援（前編）

陸上自衛隊　中央音楽隊　副隊長　2等陸佐　柴田　昌宜

4 APEC2018に向けて

PNGは赤道近くにあるオセアニア地域の常夏の国で、国土は日本の約1・25倍、人口は約895万人。国土の大半が未開発の山地や密林で、そこに世界最多800以上の民族と言語が存在している。第二次世界大戦ではラバウルやウエワクなど各地に15万人もの日本軍が動員され、米豪をはじめとする連合国との戦いで約12万8千人もの将兵が散華され、いまだ多くの遺骨が眠る地である。筆者の大叔父は東部ニューギニア戦線に将校として派遣され、高射砲の大隊に所属し数百kmに及ぶ行軍と飢餓、マラリアに罹ってラバウルに後送され終戦を迎えている。大叔父は現在101歳で健在だが、632人が所属した大隊で生還できたのはわずか60人、それほどニューギニアは凄惨な戦地であったという。私は平成27年に初めて現地へ赴き、遠くオーエンスタンレー山脈を見晴らしたとき、激戦地ポートモレスビー作戦の舞台となったその山並みに青春時代の大叔父の姿が重なり、私が自衛官としてPNGのために貢献できる奇跡を思うと、胸にグッと熱いものが込み上げてきた。

PNG国防軍は陸海空で約3600人と小規模で、その主力の陸軍も2コ歩兵大隊と1コ工兵大隊があるのみであり、軍楽隊を保有することは軍としても大きな試みであったと思う。平成29年1月からようやく軍楽隊の創設が本格化し、約40人の要員が新規に民間から採用されることとなった。とはいえPNGの義務教育は小学校までで音楽の科目はなく、集められた要員の素養は「歌がうまい」「ギターを弾いたことがある」というもので、大半は楽譜が読めず、吹奏楽の楽器は見たこともなかった。

実に根気のいる教育が始まった。音楽教育は大きく3つの分野に分かれており、楽譜を読むための音楽理論、音感を育てるためのソルフェージュ、そして楽器の奏法があるが、英語で書かれた理論書や教則本を用いて、国民性や風習、言語の違いを超えた教育は、先の見えない果てしないものに感じられた。

APECまで残された期間は2年を切っていたため、2～3カ月の現地派遣と数人の要員の日本への招へいを組み合わせ、現地にはJICA専門家として採用された自衛隊音楽隊OBが常駐するなど、国を挙げた態勢で支援を行った。

平成30年を迎え、PNG国内でもAPECへの準備が加速してきた。開催は11月となったが、APECのどこで演奏するかが決まらず、議論は遅々として進まなかった。軍楽隊の教育成果が表れてきたのは、その年の半分を過ぎた頃で、ようやく簡単な楽曲や各国の国歌が合奏でき、軍の家族向けのミニコンサートを開けるようになっていた。

APECでの演奏は、各国首脳が参加する大晩餐会での歓迎演奏となった。会場はAPECのために新築されたホテルの中庭で、各国のVIPに演奏を届けられる絶好のロケーション。晩餐会が始まる前から連続して演奏するという過酷な内容であったが、ようやく披露できる場を得たことから、軍楽隊がその時点で演奏できる曲目をかき集め、10曲弱を何度も繰り返して演奏することとした。

当日は17時頃から演奏を開始した。屋外のため天候を心配していたが幸い好天に恵まれた。各国首脳が続々と来場する中、日本から参加していた安倍総理大臣（当時）ご夫妻が会場に到着された。総理は当地軍楽隊の育成を陸上自衛隊が担っていることをご存知で、軍楽隊の姿を目にされると立ち止まって演奏をお聴きくださった。

軍楽隊はこの日のために練習した日本の唱歌「ふるさと」を演奏し、演奏が終わると総理から激励のお言葉をかけていただいた。2時間に及ぶ初めてのミッションを完遂し、軍楽隊員は元より、この日のために長い時間をかけて支援してきた私たち中音一同も、大きな高揚感と達成感で震えるような感動を得ていた。

（後編に続く）

「筆者紹介」

柴田　昌宜（まさのり）

兵庫県出身　大阪音楽大学卒

平成15年入隊・幹部候補生学校

主要部隊略歴

平成19年　第1混成団音楽隊長

平成22年　第15音楽隊長

平成23年　中央音楽隊

平成27年　陸幕総務課広報室

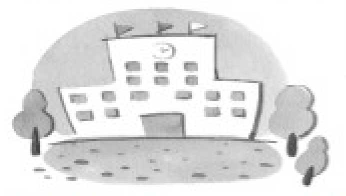
平成29年　中部方面音楽隊長

令和4年　中央音楽隊～現職

故郷の加古川観光大使も務めている。

「自衛隊の学校・今昔物語」㉓

陸上自衛隊・小平学校



1. 小平学校とは

小平学校は、平成13年3月27日に創設された自衛隊の任務遂行の基礎となる警務・会計・人事・法務・システム等の実務全般にわたる幅広い教育を担任する陸上自衛隊唯一の教育訓練機関であり、海・空自衛隊、事務官・技官も含めた自衛隊員にとっての「実学の府」です。陸上自衛隊の数ある学校の中で、職種の名称ではなく所在地域の名称がつけられているのは富士学校と小平学校だけです。

小平学校は、警務・会計の二個職種部、人事・法務・システムの三個教育部が次の教育・研究に取り組んでいます。

〇警務科部は、警務科職種の幹部・陸曹の基本教育、特に部内の規律維持を司る司法警察職務に従事する警務官を育成する陸・海・空自衛隊唯一の教育機関として、警務官として必要とされる資格・知識・技能、警務科隊員としての戦闘戦技教育および警務科職種として必要な研究を行っています。

〇会計科部は、会計科職種の幹部・陸曹の基本教育、特に会計科部隊等の任務遂行に必要な予算、給与・旅費の支払い、資金の管理・保管、歳入・歳出の決算および計算証明、債権の管理、契約業務、原価計算等に関する教育を幹部・陸曹・陸士・事務官等に行っています。また、会計科隊員として必要な戦闘戦技教育および会計科職種として必要な研究を行っています。

逮捕術訓練の様子

〇人事教育部は、幹部・陸曹・事務官等に対して部隊等で必要とされる人事（補任）、渉外広報（募集・援護・広報）、厚生に関する教育や1等陸佐の定年予定者に対する再就職に必要な教育および人事・広報に関する研究を行っています。また、事務官等の初任採用者、初級管理者、中堅管理者に対する教育も実施しています。

〇法務教育部は、法務分野の入門者、作戦運用を理解し専門的知見をもって指揮官を補佐する師・旅団法務官要員、賠償・補償担当者、学校法令担当教官等に対しての法務運用、賠償・補償、作戦法規についての教育および法務分野に関する研究を行っています。また、米軍、部外有識者等との連携を図り、教育および研究の充実に取り組んでいます。

〇システム教育部は、日米共同方面隊指揮所演習においてコンピュータシミュレーションを使用して状況を付与する戦闘シミュレーション技術操作、統計的手法やオペレーションズリサーチを運用する運用解析、ネットワークシステムの使用法やソフトウエアの改善提案等のシステム操作についての教育およびシステム教育に関する研究を行っています。

2. 小平駐屯地の地理・歴史

小平駐屯地のある小平市は、都心から西に約26kmの距離に位置し、東西10km、南北4kmと東西に長く、面積は約20k㎡です。人口約18万人を擁し、玉川上水の両岸には緑が多く残され、武蔵野の面影を今に残しています。小平駐屯地は市の南側に位置し、関東管区警察学校、国土交通大学校などと隣接しています。

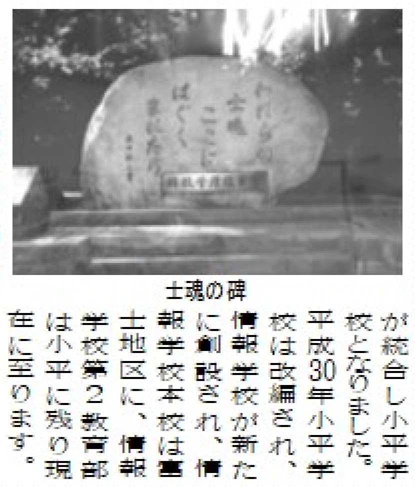
小平に旧陸軍経理学校が牛込区河田町（現在新宿区にある東京女子医大）から移ってきたのは昭和17年3月で、今年で81年になります。経理学校ができる前は、大根、茶、桑などの畑でした。当時は、物資不足が顕著に表れており建物は全て木造でした。終戦に伴い昭和20年9月に旧陸軍経理学校は解散し、米軍に接収されました。その後日本国政府に返還され、昭和29年3月旧陸軍経理学校跡地の一部に保安隊小平駐屯地が創設され、[illegible]幹部学校は市ヶ谷へ移転しました。

現在の小平駐屯地正門

[illegible]

3. 小平学校の歴史

[illegible]が統合し小平学校となりました。平成30年小平学校は改編され、情報学校が新たに創設され、情報学校本校は富士地区に、情報学校第2教育部は小平に残り現在に至ります。



士魂の碑

4. 小平学校長が語る 小平学校の将来像と教育について

[illegible]なってから4年が過[illegible]承しつつ、近年の[illegible]新たな教育、研究、[illegible]力を検討し少しずつ[illegible]ロシアの軍事侵攻に[illegible]戦、広報による[illegible]

美佐の新国防論 (146)

あまりに大きい試練　UH－60JA事故

「感慨無量の日でした」とメッセージを陸上自衛隊関係者からいただいたのは4月最初の週末でした。沖縄県の石垣島に新たな駐屯地が誕生し、4月2日（日）に開設記念式典が行われたのです。

近年、南西諸島への自衛隊配備が進められていて、2016年に与那国島、19年に奄美大島と宮古島に[illegible]あったことは想像に難くありません。それだけに、大きな結節といえる日でした。

この時、まさか、この4日後に宮古島で陸上自衛隊史上最悪といえるUH－60JAヘリの事故が起きるとは誰一人として想像しなかったでしょう。[illegible]のことについて[illegible]ことが本当に辛[illegible]

自衛官にとっ[illegible]ずれの軍におい[illegible]というものは単[illegible]段にとどまらず[illegible]いてその存在は[illegible]世主」にほかな[illegible]ベトナム戦争以[illegible]運用が本格化し[illegible]

[illegible]

桜林　美佐（さくらばやし　みさ）

[illegible]

きずな

新型コロナウイルス感染症の収束

運営委員　森山　尚直

[illegible]